

ひょうごの 遺跡

平成22年(2010)
12月21日発行

77
号

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1
TEL. 079-437-5589 FAX. 079-437-5599
ホームページアドレス
<http://www.hyogo-keukohaku.jp>

兵庫県立考古博物館

古墳時代の須恵器—加古川市神野大林窯跡群—

特集号 企画展 ひょうごの遺跡 vol.3

発掘調査によって出土した資料は、接合・復元・実測・写真撮影などの過程を経て、その研究成果を発掘調査報告書として公開します。当館では、その成果をいち早くみなさまにご覧いただくため、毎年企画展を開催してきましたが、今回は「ひょうごの遺跡 vol. 3」と題して、平成 21 年度に刊行された 16 冊の発掘調査報告書に掲載された遺跡を紹介します。

摂津

中世から近世まで続く村 みなみつじ 南辻遺跡 伊丹市昆陽 平安時代～江戸時代

伊丹市役所の西側、旧西国街道沿いにある遺跡です。付近には奈良時代に行基が開いたぎやうき 昆陽寺があり、この頃から本格的な開発が始まり、中世には一帯が「こやのしょう 小屋庄」という荘園になっています。遺跡には平安時代～鎌倉時代、室町時代、江戸時代の 3 時期の遺構が残されていました。調査区内から見つかった、幅 6～7 m、深さ 3 m 以上の堀は、その規模と形状から文献にある昆陽城に関する施設かもしれません。



室町時代の土器

江戸時代の墓地

ありおかじょうあと 有岡城跡・いたみごうまち 伊丹郷町 伊丹市伊丹・南本町・中央 江戸時代



伊丹郷町は戦国時代に荒木村重が築いた有岡城の城下町から発展し、江戸時代には酒造業で大いに栄えました。これまでに酒蔵など江戸時代の町屋の遺構が数多く調査されています。今回、郷町内にある正覚寺の旧境内の発掘調査を行ったところ、18 世紀から 19 世紀にかけての墓地が見つかりました。墓は漆喰しっくいを使用した墓室を持つ土葬墓が 7 基、桶を使用した土葬墓が 4 基、火消し壺もしくは丹波焼の壺を蔵骨器に使用した火葬墓が 15 基あります。漆喰を使用した土葬墓は 19 世紀代のものであり、その丁寧な造りから豪商クラスの墓と推定されています。墓の標石には「此下にくわんあり あわれみてうすみたまゑ」（この下に棺桶があります 見つけた人は憐れんで埋めてください）などの墨書があり、棺内からは人骨とともに入れ歯きせるや煙管などが出土しています。

江戸時代に入れ歯（木床義歯）

木製の台に石製の化粧歯をはめ込む。現在の入れ歯と異なり、歯は飾りであり、実際の咀嚼面には銅紙が打たれている。

縄文時代の墓地

のぶよし 延吉遺跡 佐用郡佐用町延吉 縄文時代～室町時代

岡山県境に近い佐用川上流にある遺跡です。南側の森ノ本地区では縄文時代後期の墓地が見つかりました。鉢を据えた埋設土器が2基、穴の中に石を配置した配石土坑が9基あります。配石土坑に使用されている石に、石皿として使用されたものが多く含まれているのが特徴です。北側の岡地区では弥生時代中期末～後期初頭の堅穴建物3棟が見つかり、土器や石器などが出土しています。この地区では古墳時代から中世にいたる各時期の遺構も見つかっており、長期にわたって居住地として利用されていたことがわかりました。



墓地に埋設された縄文土器

弥生時代初めの村

いちのこう 市之郷遺跡 姫路市市之郷 弥生時代



弥生時代前期の土器

姫路駅の東側、市川右岸にある遺跡であり、古代寺院（市之郷廃寺）としても知られています。これまでも JR 山陽本線等連続立体交差事業や街路事業に伴いたびたび発掘調査をおこなってきましたが、今回の調査で遺跡の北端部の状況が明らかになりました。見つかった遺構は弥生時代前期の土坑や中期の堅穴建物などがあります。特に、前期の土坑からまとまって出土した土器は、この時期の良好な資料です。

弥生時代から古墳時代の集落

のうねんちょう 南畝町遺跡 姫路市南畝町・高尾町 弥生時代～古墳時代

姫路駅と船場川の間にある微高地上に形成された遺跡です。船場川に最も近い調査区では、旧船場川の流路内から弥生時代～古墳時代の土器が出土しています。また、東側の姫路駅寄りの調査区では溝などの遺構から弥生時代中期の土器が多く出土しています。これらの結果から、この付近に弥生時代中期～古墳時代後期の集落が存在することが明らかになりました。



溝から出土した弥生時代中期の土器

手柄山の麓の集落

にしのみすえ

西延末遺跡

姫路市西延末

弥生時代～古墳時代

てがらやま

手柄山北麓にある遺跡です。弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴建物や方形周溝墓、土坑、溝などの遺構が見つかりました。この付近の北側を中心に集落が営まれていたようです。また形象埴輪^{けいしょうはにわ}の破片が1点出土しています。これは手柄山にあった古墳からもたらされたもののようです。



弥生時代から古墳時代の土器

赤色顔料を生産した弥生の村

かみひじもりのうえ

上比地森ノ上遺跡

宍粟市山崎町上比地

弥生時代～鎌倉時代



山崎市街地の南側、揖保川右岸の段丘上にある遺跡です。弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴建物、古墳時代後期の竪穴建物、奈良時代～平安時代前半の掘立柱建物や溝、平安時代末～鎌倉時代の掘立柱建物など多くの遺構が見つっています。特に弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴建物は、円形建物から方形建物への変化の様子がよくわかります。また弥生時代後期の竪穴建物から赤色顔料の精製に使用した石臼^{いしうす}が出土しているのが注目されます。

顔料を精製した石臼 表面に赤く顔料が付着している。

3世紀、播磨の交流拠点

ながこし

長越遺跡

姫路市飯田

弥生時代～古墳時代

姫路市街の南西側、船場川右岸にある遺跡です。1970年代に姫路バイパスの建設に先立ち調査がおこなわれ、畿内の弥生時代終末期の土器である庄内式土器が大量に出土したことで知られています。今回調査したのは以前の調査区の南側であり、弥生時代から古墳時代の竪穴建物や溝などがみつっています。遺構からたくさんの土器が出土していますが、播磨産の庄内式土器をはじめ、河内・讃岐・阿波などからの搬入土器が含まれています。この集落は畿内・四国・山陰・山陽など、播磨周辺の各地の人々が集った交流拠点であり、3世紀、邪馬台国の時代の地域間関係を知る上で重要な遺跡であることが改めて確認されました。



庄内式土器

河内や大和など畿内中心部で創出された新しいタイプの土器である。

弥生時代から中世まで続く海辺の村

みなみどおり

南通り遺跡 姫路市飾磨区中島 弥生時代～戦国時代

市川河口近くの海岸部にある遺跡です。弥生時代、奈良時代、中世と長期間にわたる生活の跡が見つっています。弥生時代の遺構は見つかりませんでしたが、前期と後期の土器がまとまって出土しています。奈良時代の遺物としては、土器とともに製塩土器や土鍾^{どすい}が出土しており、塩を焼き魚をとる人々が暮らす漁村であったことが推定できます。中世には掘立柱建物や井戸^{じぼ}などの遺構があり、地曳き網に使った大型の土鍾が出土していますので、漁村として機能していたようですが、17世紀になると集落は廃絶します。



中世の大型土鍾 地曳き網に使ったおもりである。

須恵器を焼いた古墳時代の窯跡

かんのおおばやし

かんのかたやま

神野大林窯跡群・神野北山遺跡 加古川市神野町 古墳時代



1号窯全景

地面を掘りくぼめ、天井で覆った半地下式の窯である。人の居住地であると考えられます。

加古川市街の北東、標高 30m の丘陵斜面にある古墳時代の須恵器窯跡です。6 世紀中葉から 7 世紀初頭にかけて操業された 3 基の窯が小さな谷に面した斜面に築かれていました。窯はトンネル状の半地下式（1・3 号窯）もしくは地上式（2 号窯）の構造をもち、窯の下に広がる灰原や谷を流れる流路の中から、焼き損じた須恵器が大量に出土しています。また窯跡の東側にある神野北山遺跡には、窯跡と同時期の堅穴建物などがあり、工房もしくは須恵器工

加古川水運の拠点 大野遺跡 加古川市加古川町大野 平安時代～室町時代

おおの

加古川市街地の北東、日岡山の南にある遺跡です。奈良時代から室町時代にかけての遺構が見つかりましたが、中心となるのは鎌倉時代から室町時代です。南北方向の水路に面して溝で区画された 5 つの屋敷地が並列し、その中に掘立柱建物や木棺墓、土坑などが配されています。出土遺物には貿易陶磁や備前焼、丹波焼など瀬戸内海や加古川を経由した産品が目立ち、ここは水運の拠点のひとつであったと目されます。中世加古川を利用した物流の実態に迫る貴重な成果です。



備前焼の壺

瀬戸内海交易との接点であったことを物語る。

鉄鍋を作った工房跡 しげり みやのにし 茂利・宮の西遺跡 多可町中区茂利 弥生時代～室町時代

播磨の北部、多可町中心部の南側にある遺跡です。14世紀～16世紀の铸铁鑄物の工房跡が見つかりました。鑄造土坑や溶解炉に関係する遺構があり、そこから炉材や鑄型、スラッグなどの鑄造関係の遺物が出土しています。鑄型の観察から、鉄鍋などを作っていたと考えられます。また土の分析から、スズなどの金属が検出されており、鉄の他に銅製の鑄物も作っていたようです。



鉄鍋の鑄型

土製の鑄型（外型）である。直径60cmほどの大型の鍋を作っていた。

但馬

尾根上に密集する古墳

てらやま みやのたに 寺山古墳群・宮ノ谷古墳群 朝来市山東町大月・柊木 弥生時代～古墳時代



宮ノ谷古墳群出土鉄器

刀や剣などの武器が副葬されていた。

但馬の南部、山東盆地西側の丘陵上にある古墳群です。墳墓・古墳の墳丘はいずれも溝による区画や平坦面の造成によって作られた小規模なものです。寺山古墳群では弥生時代後期後葉～末の2基の墳墓を調査し、4基の木棺から、鉄鏃・ヤリガンナ・刀子などの副葬品が出土しています。宮ノ谷古墳群では弥生時代末～古墳時代中期の10基の墳墓・古墳を調査し、9号墳からは鉄鏃・剣など、50号墳からは鉄鏃・鉄製農具など、53号墳からは刀・剣といった副葬品が出土しています。

古墳を利用した戦国時代の山城

こうちだに 耕地谷古墳群・耕地谷城跡 豊岡市九日市下町 古墳時代・戦国時代

豊岡市街地の南にある古墳群です。丘陵尾根の先端部で4基の古墳を調査しました。1号墳には3基、2号墳には8基の埋葬施設があり、ヤリガンナや鉄鏃が副葬されていました。この古墳を利用して戦国時代に城が築かれています。古墳の墳丘を曲輪くるわとして使用し、周溝を掘り広げて堀切に、さらに斜面に段状の平坦面を設けています。戦国時代の前半期に整備された小規模な城郭です。



2号墳出土土器

辻川沿いの遺跡

いのうえもりかいちのつぼ

みやのまえむかい

こなかおいだにぐち

井ノ上森垣内ノ坪遺跡・宮ノ前向井遺跡・小中追谷口遺跡

篠山市井ノ上・宮ノ前・小中 縄文時代～鎌倉時代

篠山盆地東部、篠山川と辻川の合流点から辻川沿いに並ぶ遺跡です。井ノ上森垣内ノ坪遺跡は飛鳥時代から鎌倉時代の集落遺跡であり、4棟の掘立柱建物が見つっています。宮ノ前向井遺跡は縄文時代から弥生時代の遺跡で、ドングリが入った土坑が2基見つっています。小中追谷口遺跡は鎌倉時代の遺跡で、掘立柱建物が1棟見つっています。



井ノ上森垣内ノ坪遺跡の土器

淡路

弥生時代の朱塗りの杓子

しもがも

下加茂遺跡

洲本市下加茂

弥生時代



朱塗りの杓子

洲本市街地の西側、洲本川左岸にある遺跡です。弥生時代中期の水田と周溝墓群が見つっています。4基の方形周溝墓と2基の円形周溝墓があり、周溝から供えられた土器などが出土しています。1号墓の周溝底からは、朱塗りの杓子と鋤や鍬などの土掘り具が出土しており、儀礼行為の後に溝の中に入れられたと考えられます。

淡路島の山間にある中世集落

やまだちく

おおとし

うわだ

ひちたんだ

山田地区遺跡（大歳遺跡・宇和田遺跡・七反田遺跡）

淡路市山田

縄文時代～江戸時代

淡路島北西部、山田川沿いの小盆地にある遺跡です。縄文時代から江戸時代の遺構・遺物がみつっていますが、中心は鎌倉時代前半と室町時代前半です。各遺跡に掘立柱建物が数棟単位で散在しており、3つの遺跡でひとつの集落となっていたようです。また大歳遺跡からは古代の役人が身につけた石帯^{せきたい}が2点出土しており、9世紀～10世紀頃にこの付近に公的な施設が存在した可能性があります。



大歳遺跡の石帯

古代の役人が腰に巻いたベルトの飾りである。



- 1 南辻遺跡（伊丹市）
- 2 有岡城跡・伊丹郷町（伊丹市）
- 3 延吉遺跡（佐用町）
- 4 市之郷遺跡（姫路市）
- 5 南畝町遺跡（姫路市）
- 6 西延末遺跡（姫路市）
- 7 上比地森ノ上遺跡（宍粟市）
- 8 長越遺跡（姫路市）
- 9 南通り遺跡（姫路市）
- 10 神野大林窯跡群・神野北山遺跡（加古川市）
- 11 大野遺跡（加古川市）
- 12 茂利・宮の西遺跡（多可町）
- 13 寺山古墳群・宮ノ谷古墳群（朝来市）
- 14 耕地谷古墳群・耕地谷城跡（豊岡市）
- 15 井ノ上森垣内ノ坪遺跡・宮ノ前向井遺跡・小中追谷口遺跡（篠山市）
- 16 下加茂遺跡（洲本市）
- 17 山田地区遺跡
（大歳遺跡・宇和田遺跡・七反田遺跡）（淡路市）

展示遺跡の位置

企画展

ひょうごの 遺跡 vol.3

初公開！復元された出土品

平成 23 年

1月15日 **土** ～ 2月27日 **日**

- 観覧時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）
- 休館日：月曜日（祝日にあたるときは翌日）
- 会場：兵庫県立考古博物館 特別展示室
- 観覧料金：大人 200 円（160 円）、大学生 150 円（120 円）、高校生 100 円（80 円）

※（ ）内は 20 名以上の団体料金・中学生以下は無料
※障害者およびその介護者、65 歳以上の方は半額

展示解説 会期中の毎日曜日 13:30～14:00

関連行事

講座 兵庫考古学研究最前線

- 1月22日（土）「南但馬の古墳群を掘る」 平田博幸（当館学芸員）
 - 2月 5日（土）「都会の墓地を掘るー近世伊丹郷町の発掘調査からー」 西口圭介（当館学芸員）
 - 2月19日（土）「兵庫の発掘史ー黎明期から考古博への道のりー」 吉田 昇（当館主幹）
 - 3月19日（土）「中近世考古学への視点ー家老屋敷から丹波焼へー」 岡崎正雄（当館事業部長）
- 13:30～15:00（受付 13:00 より） 会場：当館講堂 定員 120 名 無料・当日受付

編集後記

今年も「ひょうごの遺跡」展を開催します。発掘調査が完了してから長い時間が経過している遺跡もあり、ネタの新鮮さは新発見の遺跡には及びませんが、整理作業を通じて調査研究された成果をご覧いただきたいと思います。3月19日からは平成22年度に調査した遺跡の速報展を開催しておりますので、こちらも楽しみにお待ちください。

